

ブドウ新品種 ‘シャインマスカット’ の品種特性

栽培研究部 果樹グループ 永原美里

‘シャインマスカット’は、1988年に独立行政法人農業技術研究機構果樹研究所において安芸津21号（スチューベン×マスカット・オブ・アレキサンドリア）に白南（カッタクルガン×甲斐路）を交配して育成された新



品種です。2006年に品種登録され、緑色系品種の中でも大粒で食味が優れており、有望品種として全国的に注目されています。

そこで、本県における特性および適応性を明らかにするため、果実特性及び果実品質を調査しました。また、果皮の汚損の発生が認められるため、袋掛けによる軽減効果を検討しました。

○結果の概要

2004～2006年に、雨よけ栽培の‘シャインマスカット’について果実特性及び果実調査を行い、緑色系優良4品種を対照として比較を行いました（表1、2）。収穫期は9月上旬とやや晩生で、果房重は623g、果粒重は12gと本県育成の‘しまねスイート’並みに大粒でした。果肉は崩壊性で硬く、マスカットの香りを持ち、糖度は21.1%と‘ハニービーナス’と同様に高くなりました。酸含量は0.28g/100mlと最も低く、酸抜けは良好でした。裂果の発生は‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’程度で、皮はやや剥けにくいですが、皮が薄いので皮ごと食べることができます。

また、果皮の汚損を軽減するため、白色袋を用いて袋掛け試験を行ったところ、無袋では100%汚損果が発生するのに対し、有袋では、40～50%程度汚損果の発生を

表1 緑色系品種の収穫期および果実特性(2004-2006)

品種名	収穫期	果房重 (g)	果粒重 (g)	果肉特性	果肉硬度
シャインマスカット	9月上旬	623	12.0	崩壊	硬
マスカット・オブ・アレキサンドリア	8月下旬	463	9.1	崩壊	中
ロザリオ・ピアンコ	9月下旬	535	10.5	崩壊	軟
ハニービーナス	8月下旬	398	9.7	塊状	中
しまねスイート	8月下旬	629	12.2	崩壊	中

表2 緑色系品種の果実品質(2004-2006)

品種名	糖度 (Brix.%)	酸度 (g/100ml)	香り	裂果粒率 (%)	はく皮
シャインマスカット	21.1	0.28	マスカット	4.7	難
マスカット・オブ・アレキサンドリア	19.3	0.53	マスカット	5.4	易
ロザリオ・ピアンコ	20.3	0.35	なし	0.5	易
ハニービーナス	21.8	0.54	フokシー	1.0	易
しまねスイート	16.8	0.44	なし	6.3	難

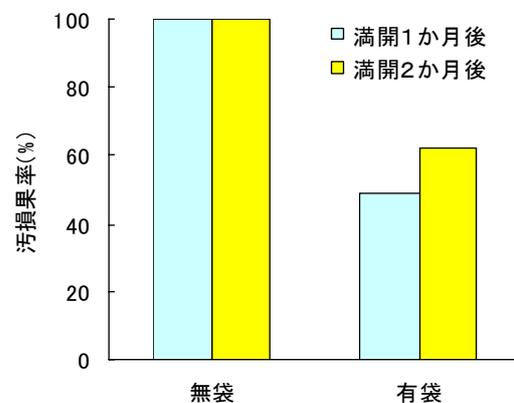


図1 ‘シャインマスカット’における袋掛けの有無と被袋時期の違いが汚損果率に及ぼす影響(2004)

軽減することができました。さらに、満開2か月後よりも1か月後の方が汚損果発生率が少なく、早期に袋掛けする方がより効果が高いことがわかりました（図1）。

○おわりに

‘シャインマスカット’は大粒で、食味が良いだけでなく、栽培も容易であることから、‘デラウェア’との複合経営品目として振興する予定です。しかし、果皮の汚損についてはまだ、原因が明らかになっておらず、対策についても確実な方法が得られていないため、早急に原因解明と軽減対策を検討する必要があります。現在、本県での適性を明らかにするため、県内8戸の農家で実証栽培を行っています。